

千葉県の淡水魚を勉強してみよう！（その1）

淡水魚類は生物全体のなかでも絶滅危惧種の割合が高いグループで、環境省のレッドデータブック（RDB）では約42%が絶滅危惧種とされています。千葉県の淡水魚の現状は不明な点が多いため、にぎわい調査団でも情報を集めていきたいと考えていますので、ぜひ生きもの報告をお寄せください。（生物多様性センター 鈴木規慈）



ミヤコタナゴ♂

コイ科タナゴ亜科に属する日本固有種。関東地方に分布していたが、現在は千葉県と栃木県の一部にのみ生息している。天然記念物と国内希少野生動物種に指定されており、捕獲や飼育はできない。



ヤリタナゴ♂

コイ科タナゴ亜科に属する広域分布種。朝鮮半島にも分布している。千葉県RDBでは県内の個体群のうち、利根川水系以外の個体群は国内移入種とされている。釣りの対象や観賞魚として人気がある。



タイリクバラタナゴ♂ 外来種

中国から朝鮮半島に広く分布。国内には、太平洋戦争の際に揚子江から食用目的で持ち込まれた魚類とともに移入したとされる。在来のタナゴ類との競合関係があるため、分布を抑制する必要がある。



タモロコ

コイ科バルブス亜科の広域分布種。近年、印旛沼水系のタモロコは国内移入種ではないかと示唆されている。モツゴに似るが、口元のヒゲと尾鰭基底の黒点が判別点。琵琶湖固有種のホンモロコと近縁。



モツゴ

コイ科ヒガイ亜科の広域分布種。中国から朝鮮半島にも分布。関東地域のモツゴは国内移入種の可能性もあるが不明。近縁種のウシモツゴとシナイモツゴは、絶滅危惧種に指定されている。



クロダハゼ（トウヨシノボリ橙色型）

ハゼ科ヨシノボリ属の広域分布種。近年、クロダハゼと改名された。繁殖期にオスは尾鰭基底が橙色になる。県内の純淡水型ヨシノボリ類は他に、カズサヨシノボリ（トウヨシノボリ房総型）がいる。



フナ類（ギンブナ）

コイ科フナ属の広域分布種。ギンブナはメスだけで、クローン発生する。他地域からの導入があり、県内のフナ類の分類は混沌としている。コイとの識別点は一見して大きな目と、口元にヒゲがない点。



コイ

コイ科コイ亜科の世界的広域分布種。国内には在来の通称ノゴイと、大陸から移入した通称ヤマトが混在し、県内ではヤマトが一般的。コイヘルペス発生防止のため、県内の水系間での移動は禁止。

お願い

淡水魚の発見報告を送っていただくときには、全身が入るように横から写真を撮影してください。

個人で飼育していた個体は、野外に放さないでください。病気を媒介したり、遺伝子汚染の原因となり、地域個体群を絶滅させてしまう危険性があります。

動植物の和名について

一つの生き物に複数の和名があったり、違う生き物に同じ和名が使われていたり、混乱することがよくあります。近年、千葉県で馴染み深いメダカとキリギリスの名前が変わりましたので、ご注意ください。

ニホンメダカ

メダカは日本人に最も親しまれてきた淡水魚ですが、2007年に改定された環境省のレッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類に選定されました。環境の悪化だけでなく、特定外来生物に指定されているカダヤシとの競合に負けてしまったとも考えられています。また、飼育品種のヒメメダカや他地域のメダカを保全の名目で放流する事例が後を絶たず、在来個体群の存続が危ぶまれています。以前から日本海側に生息している北日本集団と、太平洋側に生息する南日本集団が知られていましたが、2013年に

キタノメダカ *Oryzias sakaizumii*、ミナミメダカ *O. latipes* の2種に分類されました。千葉県の在来のメダカはミナミメダカです。



キリギリス

夏の風物詩キリギリスが、2010年に2種に分けられました。

近畿地方以東のヒガシキリギリス *Gampsocleis mikado* と、近畿地方以西に生息するニシキリギリス *G. buergeri* で、千葉県はヒガシキリギリスの分布域とされています。しかし調査団員の報告では、キリギリスとして6件寄せられたうち1件に、ニシキリギリスと思われる個体の写真が添付されていました（2015年7月現在）。

ヒガシキリギリスの特徴は、1) 翅の長さが腹端を越えない 2) 翅の黒斑がニシキリギリスより多いとされていますが、個体差があり写真では見分けが難しいこともあると思われます。ご報告をお待ちしています。



平成27年度第2回現地研修会は平成27年10月24日(土)

紅葉には早いですが、梅ヶ瀬溪谷(市原市)を歩きます。詳しくは同封のご案内をご覧ください。

平成27年10月3日(土)～8日(木) 中央博物館 収蔵庫燻蒸のため
生物多様性センターへのご連絡はこの期間中、中央博物館生態園管理棟(電話 043-265-8221)まで

平成27年11月5日(木) 中央博物館講堂にて

第18回自然系調査研究機関連絡会議※(NORNAC18) 調査研究・活動事例発表会を催します。各地の自然を守るために、国及び地方自治体がどのような取り組みを行っているか、最新情報を各研究機関の担当者本人から聞くことができる、滅多にないチャンスです。どなたでも聴講できますので、ぜひご参加ください。千葉県生物多様性センターからはシャープゲンゴロウモドキの話題を提供します。

※事務局：環境省生物多様性センター。41機関が参加し、千葉県では中央博物館と生物多様性センターがメンバーです。

<これからの季節に観察できる生きもの>

- 調査対象種：ミヤコドリ、モズ(高鳴き/はやにえ)、ヒガンバナ(開花)、リンドウ(開花)、ハリセンボンなど
- 調査対象種以外：アカボシゴマダラ、淡水魚類各種、ミシシippアカミミガメ、キョン、ヤマビル

* 希少生物(生息・生育数が減少している生物)や、外来生物の報告も受け付けています。

* 対象種以外の報告でも受け付けています(種同定のため写真添付をお願いします)。

メールアドレスなど、団員登録情報に変更がありましたら、事務局までお知らせください